

(平成 29 年 6 月 7 日 午前 9 時 45 分)

●議長(小林幸雄) おはようございます。御苦労さまでございます。

本日の出席議員は全員であります。本日の会議を開きます。

ここで最初に、皆さんにお諮りいたします。昨日の伊藤議員の一般質問の中で、本人より「——」と発言した箇所を「認知症」に訂正したいとの申し出がございました。訂正することにご異議ございませんか。

(「なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。

よって、訂正することに決定いたしました。

●議長(小林幸雄) 本日の議事日程は、お手元に配布のとおりであります。

日程第 1、通告による一般質問を行います。

通告の 6 佐藤博一議員。

1 観光政策について

議席番号 3 番・佐藤博一議員。

◆ 3 番(佐藤博一) 議席番号 3・佐藤博一でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。今日が初デビュー戦でございます。私、新人でございます。新人でございますので町当局の皆様、分かりやすくご答弁のほど、よろしくお願ひ申し上げます。後ろの外野は黙っててください。

それで、今回の一般質問でございますが、一つの大きな、くくりを作っていました。観光政策についてということでございます。当然、信濃町におきましては農業と観光の町であります、と、ずっと言われてまいりました。こここのところ町長の、よくお言葉で耳にしますのが「丸ごと観光地」、非常に良い言葉だと思います。私この言葉、好きになりました。「丸ごと観光地」、全てひっくるめて信濃町は一丸となって頑張っていくと、昨日、副町長もおっしゃっていらっしゃいました、食、水、空気、様々な観光施設、そういったものを一丸となって信濃町を売り込んでいくと、そういったところのことをお聞き承りまして、今日は観光についてお聞きしていきたいと思ひます。

まずは、私の考える観光というものをちょっと申し上げてみたいと思ひます。

観光の「観」という字は、見るという字でございます。これは当然、旅に皆様があちこち出られまして、いろいろな所を見て歩く、神社仏閣、またいろいろな旧跡等見て歩く、当信濃町におきまして、3 館がございますし、また黒姫山、斑尾高原、野尻湖、見る所がたくさんございます。

「光」、ひかりですね、これこそまさに、今申し上げた施設的なもの、目に入るものでございますが、これは、私は一番光るものは、人間だと思っております。この信濃町で頑張っている、働いている皆さんを見に来ていただければ、これこそ観光として成り立っていくのではないかと思います。

そこで、まず、最初に町長にお聞きしたいのですが、町長の思っている観光というものはどういうものか、お答えいただければと思います。よろしくお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 佐藤議員さんのご質問にお答えをさせていただきたいというふうに思います。今、佐藤議員さんのご所見の中でも、観光という捉え方をお示しをいただきました。私はまさに、その観光というのが、読んで字のごとく、観る、光る、この観光の捉えが、そのまま捉えが良いかという意味と、若干違った意味を私自身も持っております。

昨今、この観光というものは、おっしゃられたように信濃町の素晴らしい、きらびやかな、と言いますか、そういった意味では観る観光というのは、いくつか要所がございます。童話館、博物館、一茶記念館、そしてまた自然的に言えば、黒姫高原、斑尾高原、野尻湖、等々あるわけがございます。そういった意味を私は常々そのある面で、きらびやかな観光というふうに捉えているわけがございます。

今、これからの観光というのは、そういった観光にプラス、まさに佐藤議員がおっしゃられたように、そこに住んでいる人そのものも観光の素材、大事な素材だというふうに思っております。合わせて当然そこに発生する、地元の文化、いわゆる産業、平たく言えば農業もそういうことになってこようかと思っておりますが、そういった全部を含めて、今まさに観光というふうな、広い範疇でのとらえ方を、今後はしていく必要があるのではないかなというふうに思っているところであります。以上です。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤博一） 町長、明確なお答え、非常に私と同じところかなと思っております、ありがとうございました。

観光の、よく、三要素というものがございます。昔からよく言うのが、「あご」、「足」、「枕」、ですね。「あご」は食べるもの、「足」は交通の便、「枕」はお宿でございます。あと最近よく言われて別の三要素というのは、史跡であり、食であり、温泉であると。当町においては、ちょっと温泉だけがないかな、ないにもかかわらず、近隣の市町村に何えば近い所にはあるということで、私なんかも様々な所で「来てください」と申し上げる時に、温泉も近くにもありますよ、また温泉のことも研究している会もありますよ、ということは伝えております。

信濃町、この三つの要素のほかに、まだまだ要素というものがあまして、魅力ある観

光地なのか、行ってみたくなる所なのか、安心して過ごせる観光地なのか、そういったところで、一番最後の、安心して過ごせる、というところは、行政の皆さんが非常に頑張っておられまして、安心というものを担保できるような、私ども観光地であると思っております。

また、行ってみたくなる観光地であるか、これについては、来てくださる方は、町外の方、もしくはインバウンド、海外の方に対して、どのように来て、行ってみたいなということをお考えしているのかと、これは産業観光課におかれまして、非常にパンフレット等作られたり、外部に委託しながらもやっつけたりすることは、重々承知しております。

では魅力ある観光地であるかどうか、これがやはり最大のところでございまして、信濃町の、先ほど町長がおっしゃられましたように観光というのは、観光事業者だけではなくて、それを支えてくださる商工業の方もいらっしゃいますし、様々な産業の集約としての観光だと思っておりますが、これが果たして信濃町が魅力あるかということ、ここのところ、私は、どうも疑問を感じてしまいます。

町長も申されておりますけれども、信濃町のこのDMOということでございます。そういったことにつきまして、当然これは商工から交通から行政も関わり、更には飲食から農業、宿泊、全てオールスターズ、それが町長がよくおっしゃっていらっしゃる「丸ごと観光地」になっていくのかなと思うのですが、そのDMOということに対してまして、どういうお考えを持っていらっしゃるか、お聞きしてみたいと思います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 私は、この行政を担当していると、どうしてもその行政エリアということを中心に考えがちなのですが、ただこの、こと観光ということになりますと、やはり「面」として考えていくというのは当然の考え方だろうと思うのです。例えば市町村境とか、県境という県境の線引きは、全く必要ないわけでございます。お越しいただくお客様からすれば、その面一体が本当に魅力ある観光地であるか、自分の望むその訪れたい場所であるか、というようなことが、非常に大事なことになってくるのだらうなと思います。そういった意味では、ちょっと先走るようですが、飯山市を中心とした信越自然郷9市町村、そしてまたお隣・妙高市とも、DMOを強く、昨今意識をして、お互いにそういうことで連携し合えよう、ということを進み始めているわけでございますので、ご理解をお願いしたい。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤博一） はい、ありがとうございます。DMOに関しましても、私もそれはおっしゃるとおり、面のつながり、これはもともと広域連合というものもございまして、また信越自然郷、イベント的には、シー・トゥー・サミット、またこの、しなの鉄道を使ったもの等、つながりが、やはり観光というものが客を呼び、客を回し、お互い持ちつ持たれつのものであるということは認識しております。

その観光の、まずはアウトラインから入らせていただいたのですが、通告書に書かせていただきました、観光審議会条例というものがあります。これが 4・5 年前だと思うのですが、私どもの大先輩議員が、この議会で観光審議会条例というものがあるが、どうなっているのかと、20 年くらいずっと開いていない、ということで、当時開くべく、観光審議会が開かれ、ちょっと気になったので今年の予算書を見てみました。そうしたら、観光審議会の費用が計上されているところにちょっと着目したのですけれども、産業観光課長さんにお伺いしたいのですが、それはいかがなもので、どういうものでございましょうか。

●議長（小林幸雄） 小林観光産業課長。

■産業観光課長（小林義之） 観光審議会については、今議会においては補正予算をお願いしまして、今年度下半期に審議会の開催を予定しているところであります。その関係で講演会なども一緒に、議題として載せたものについては、講演もしていただきながら皆さんに理解もしていただき、また一般の方にも聞いてもらう機会を設けて、観光に関する審議会として、この 10 月ごろ開催を予定しているところであります。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） はい。ありがとうございます。今の審議会につきまして、私のイメージしている審議会というのは、うちのこの条例を読みますと、委員さんは 10 名以内で、町長が委嘱して、任期 2 年で、今、課長がおっしゃったような講演をするとか、今回予算には謝金というものが書いてありましたけれども講演をするとか、住民の方を呼ぶ、というのは、ないように思われたのですが、ただ、条例の一番最後を見ていきますと、これを開くにあたって必要な事項は、最後に、町長の定めるところによる、ということにあるので、拡大解釈しておきますし、今年審議会を開いていただけるということで、それは前向きに感謝申し上げたいと思います。

続きまして、通告書に書きました、観光のコンテンツ、コンテンツという横文字を使って申し訳ないのですが、先ほどいろいろ申し上げたものがコンテンツでありまして、もちろん当町の一茶記念館から始まり、この 3 館もコンテンツ、それから、道の駅も一つの重要なコンテンツの一つでありますし、またこれは「見えるもの」。

「見えないもの」的な、行われるものとすれば、癒しの森、今、名前が変わってきていますが、癒しの森であり農山村体験、こういったことも観光につながっている、体験の観光ですね。それからスポーツ合宿、これはシー・トウー・サミットやトライアスロンとも連携しております。こういったことでお客を呼び込んでいる。それから別荘地は、これもともと 100 年近く前から野尻湖の N L A、大学村等ございますし、非常に信濃町の観光素材というものは、充実したものがそろっていると思います。

例えば農山村で言えば、姉妹都市の流山市さんから生徒さんを送り込んでいただいた

り、スポーツ合宿で言えば大学の駅伝のチームが来ていただくと、非常に活気づいて行われていると思うのですが、その姉妹都市の流山市のまた更に姉妹都市の能登町というところが石川県にございまして、何度かお邪魔したことがあるのですが、そちらの姉妹都市、私どもまだ姉妹都市ではありませんが、別関係の流山市さんを通してのつながりだけだと思えますけれども、そういった所と、こちらは農産物が豊富でございまして、向こう様は海産物が豊富、そういったところと、流山市さんをもう一度介しながら、私どもの、流山市さん自身が人口が 18 万ございまして、能登町が 2 万人、両方足すと 20 万です、そういった限定的なエリアからのお客も呼び込むということも考えれば、これも一つの観光政策になるのではないかと思いますのですが、能登町と、また流山市さんに仲を取っていただきながら、姉妹都市を結ぶべく、何か考えは、町長、ありますでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 能登町とは、今、佐藤議員がおっしゃられたように、佐藤議員も多分何回か行かれたのだと思うのですが、流山市と私ども信濃町が、一茶をご縁として姉妹提携をさせていただいて、今年、去年で 20 年くらいになったのでしょうか。その後、能登町がいわゆる杜氏の関係で流山市さんとの姉妹提携をされたということなのです。酒の杜氏ということですが。

そんな中で、流山市に私どもがお邪魔しても、むしろ流山市さんが仲介の労を取るような形で、「能登町さん、信濃町さん、どうなのですか」と、今おっしゃられるように、姉妹提携どうですかと、こういう積極的な仲介の労を取っていただいているというのも事実なのです。

私は、どういうふうに町民の皆さん方の理解度が高まるかということが、一つの大きなポイントになってくるであろうというふうに思っているのです。ですから、能登町の今の、四選を果たされました持木町長とも、私もこの立場になった時に、前にもそういう話、動きがあったということは私も承知しておりましたので、先方の町長とも、ざっくばらんにその辺の話をさせていただきました。お互いに、しばらく交流を深めましょうと、こういうことで、お互いに今の段階で、両首長同士が理解をし合っているという形でございます。その中で、去年、一昨年ですか、町の商工会が能登町の商工会と協定を結ばれて、一層交流を深めていきたいというような方向性も出てきているわけです。

私は、自治体と自治体が姉妹提携になるのか、あるいは違った段階での手を結ぶのかということは、いろいろな方法があるかと思えますけれども、しっかりと町民の皆さんに理解いただけるような方法に、方法と言いますか、段階になることが、まず大前提だろうというふうに思っておりますし、それに行政としても引き続き、能登町とも親しくお付き合いをさせていただき、今も観光的にも能登町から道の駅へ来て販売をさせていただいたり、私どもも、私自身も行きますけれども、去年も、去年は行かなかったかな、一昨年も行かせていただきました。向こうの「ござれ祭り」だとか、いろいろなところに副町長も含めて交互に行かせていただいて、交流の原点を今深めさせていただきながら、進めているところでございまして、いろいろな状況を十分配慮しながら、可能な

ことなら、そういう方向に到達点を持っていくのも一つかなというふうな頭は持っております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） はい、ありがとうございます。町のリーダーがそのような前向きなお考えということで、お答えいただき、ありがとうございます。やはり、能登町と信濃町の共通項、一つあるのです。ブルーベリーでございます。これは向こうの大きなブルーベリー園がございますし、また当町も全国で先駆けてこのブルーベリー栽培をしたという所でございます。ブルーベリーサミットも行われた所でございますので、縁が、探せばいくらでもあるのではないかと。

先ほどの、今 2 番目のコンテンツから、ちょっと能登町を出してしまったのですが、まだまだ、信濃町の魅力というものは、これは春の湖水開きから始まり、一茶まつりから灯ろう流し花火大会、挙げていけば、ずらずらと 10 個くらい当たり前に挙がってきます。日頃、そういった中で、非常に縁の下の力持ちとなって頑張っておられるのは、私は産業観光課だと思っております。またその産業観光課を軸に、全職員一丸となって頑張っているというふうに見ております。これは、観光地にある自治体の職員ならではの宿命だと思いますし、見る限り皆さん文句も言わずに黙々と働く姿、これもまた一つの、観光地で働いている、一番最初に申し上げた、光り輝いている部分でございますので、職員の皆様におかれましては、産業観光課、商工観光、非常に苦しいところがありますけれども、なお一層頑張っておられればと思います。

次に、インバウンドのお話を、昨日、同僚議員の片野議員から結構お話が出てまいりましたので、課長の方から数字の伸びを、結構増えているというところは、評価したいと思います。ただし、その後にスキーという言葉が出てまいりました。スキーとなると、もう、どこで、どこの事業者さんが頑張っているのだということは一目瞭然でございますし、他の、私ども町内の、大小というところとちょっと語弊があるかわかりませんが、小規模事業者におけるインバウンドの影響は、実際は数値的なものでいうと、5 パーセントくらい、昨日のお答えから聞くと 5 パーセントくらいかなと。

大手が自分のところの方針で、お客を呼び込む、それに町もうまくジョイントしていると、それでムーブメントを作りながら、このインバウンドというものを進めていくのが非常に大事だと思います。それが実際、小規模の事業者さんや、町内の商店等に恩恵が来るかどうか、そういったものの対策は何か課長、お考えでございませうか。

●議長（小林幸雄） 小林産業観光課長。

■産業観光課長（小林義之） インバウンドの事業につきましては、現在、旅行会社によるツアーの団体客がメインとなっております。ツアー会社からの要求等で、どうしても部屋にバス・トイレ付でなければならないというような条件もある中で、大手宿泊業者

での宿泊がメインとなっているのが現状でございます。

またそのお客様に対しましては、ワカサギ・ニジマス釣りですとか、スノーシュー、また雪遊び、癒しの森の体験など、様々なアクティビティを体験していただいております。また昼食などのお弁当も町内業者を使っていることから、大手観光事業者だけではなく、小売事業者への波及効果にも大きく、地域観光収入の増加につながっていると考えております。

また昨年からは、国内の旅行会社の下見の旅行、また国外での商談会にも官民連携で誘客活動を行っております。また今年度につきましては、町内のアクティビティのパンフレットなども外国語表示で作成をすることとしているところでございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤博一） ありがとうございます。大手を中心として、そこへ出入りしている、様々な業者さんが恩恵を被っていたりしてはおると。実際、大手ではない、小さなペンション、また宿屋さんに、もっとダイレクトにいけるような方策はないのかということが、ちょっと気になっているところでございます。

またパンフレット等を作ることは、印刷物は専門屋さんに任せて、翻訳等も専門屋がやるわけでございますけれども、そういったものが、やはりまだ小さなペンション等宿の方にも行き渡っているかどうか、またその小さな、あまり小さい小さい言うと怒られますけれども、大手ではないところの、事業者さんへの教育的なこと、例えば英語とか中国語とか韓国語とか、そういった講座みたいなものは開いているのかどうか、ちょっとお聞きしてみたいと思います。

●議長（小林幸雄） 小林産業観光課長。

■産業観光課長（小林義之） 昨年度、町内観光事業者に向けて、インバウンドの意識調査を行なったところであります。外国人観光客誘致に関しましては、賛成か反対か、また受け入れに対する不安は何か、等のアンケート調査を行いました。

誘致に関しては、6割の方が賛成、反対は4パーセントでございました。そのような中でも、マナー、言葉などいくつかの不安な面を抱えていることも浮き彫りになったところであります。

これに対しましては、町としても必要なハード、ソフトの面の両面から、更なるサポートを行っていきたいと思っております。また昨年度、このアンケートを基に、言葉に対する不安解消のため、指差し会話帳を製作いたしまして、観光事業者等にご活用をいただいております。また昨年は神戸山手大学のインバウンド人材育成講座を町内で開催いたしまして、町内の宿泊施設からも多くの方から受講をいただいております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

- ◆3 番 (佐藤博一) 昨年、そのようなアンケートということで、町内事業者さんのご意見も伺いつつ、動き始めたところだというふうに思います。それは更なる研修なり研鑽なり進めていただければ、ありがたいかなと思います。

そこで、先月なのですが、私用で金沢に行ってまいりまして、駅前を歩いていましたら、もうほとんど外人だらけなのですよ。で、じゃあうちの黒姫駅を降りて、外人さんを見るかという、これは7月、8月の野尻湖の外人別荘地がオープンする頃に多々見られます。ただ、彼らは観光客というよりも避暑に来ている方々でいらっしゃいます。元々ただ信濃町の野尻の観光を教えてくれたのは外人さんで、大正時代、外人さんでございますし、そういったインバウンドの、とはいうものの、同じ外人の顔をしているから外国の方に見えるだけであって、実際は日本に住んでいらっしゃる、彼らも聞くところによると、昔は1か月普通に休んでいたものが、今は日本的に1週間か2週間も休めればいいところだと、そういったNLAのような方との何か連携を取ることというのは、考えは、あと4年ほどで100周年迎えると聞いておりますが、そういったところで何か連携を取って情報をいただくとか、そういったことはいかががございましょうか。

- 議長 (小林幸雄) 小林産業観光課長。

- 産業観光課長 (小林義之) 今現在、NLAの方々とは直接連携をしながらということは、今現在行っておりませんが、また参考にさせていただきたいと思っております。

- 議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

- ◆3 番 (佐藤博一) インバウンドとはちょっと離れると思うのですが、実際、情報を持っている彼らでございますので、いくら避暑に来ている彼らであっても、来ている間はかなりアクティブに動いておりますから、また声をかけながら、動かれることをお勧めします。

それと、平成25年に、一茶夏まつりというのを行いました。この時に町内に神楽が多々ありまして、昨日も酒井議員のアーカイブのところにもありましたけれども、そういった神楽の、ああいった、神楽もしくは獅子舞を外国の方にお見せするようなシーンがあれば、何か一つのネタになるのではないかなと思うのですが、そういったものは何か考えはありませんでしょうか。

- 議長 (小林幸雄) 小林産業観光課長。

- 産業観光課長 (小林義之) 非常に、外国の方々の、日本の文化というのを見たいというような要望もある中で、信州DCの中でも、そのようなことで神楽、獅子舞などを見せて皆さん外国人の方と一緒に開催をしていることもありますので、またそんなことも、町内の神楽の方がご協力いただけるかどうかは分かりませんが、そこら辺に

についてもまた、そういうようなことができれば、夏とかそういうようなお祭りなどに合わせてやれるようなイベントなども、また検討していきたいと思えます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） 今、課長のおっしゃるとおり、これ、神楽、我々ここの議場だけで論じているだけではできない、実際演じる皆様の保存会なりのご協力がないとできないものでありますし、それは昨日、同僚議員のアーカイブという言葉が非常に私は耳に残っておりまして、そういったことも、教育委員会さんも含めまして、記録に残していく、様々な面からありますので、神楽、獅子舞というものも信濃町にありき、ということを発信していただければ、これまた一つの観光のテーマになっていこうかと思えます。

次に、先ほど、今、発信ということをお願いしたのですが、通告書に書かせていただきました、宣伝と広告、偉そうに戦略なんて書いてしまったのですが、これはまだまだ難しいと思えます。一つには観光の伝えていく手法として旧来からあります紙媒体のパンフレット、ポスター、そういったものは都市部に多分送っていらっしゃると思えますし、また新聞の広告雑誌、テレビはかなりお金が掛かります。これは費用対効果等を見ていくと、いかがかとは思いますが、ちょっと話がずれますけれども、私の家に 84 歳の母親がおりまして、毎朝新聞を見たときに、おくやみ欄から入ります。次にちょっと前に戻って、北信欄で、信濃町が記事に出ているかどうか、これが非常に関心度の高いところであります。これを、よそのお年を召した方に聞いても大体、うちの町のことが出ていると嬉しくなる、と言っています。これはどんなことでも、とにかく信濃町ということが新聞に出てくると、嬉しいと。

うちの町はそれだけ、新聞記者は、これは様々なところから記事を集めて、その中で取捨選択しながらも、あそこに生き残って印刷されたものが翌朝、皆さん、私ども、届けていただいているわけですので、それだけ新聞に扱っていただけるような、まさに記事ということはタダで載せてもらえるわけですから、その辺の戦略ですね、地元の新聞記者回りとコンスタントにコンタクトを取られているかどうか、その辺の情報を日頃から 1 か月、2 か月先のことを流しているかどうか、ということ、産業観光課長と総務課長、お二方に伺ってみたいと思えます。

●議長（小林幸雄） 小林産業観光課長。

■産業観光課長（小林義之） 町で行うイベント等につきましては、情報提供をさせていただいているところであります。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい、今、議員からお話がありました、某新聞だと思えますけれども、その記者の方につきましては、毎月 1 回、町の次の月の予定等を取りに来ていただいております。あちらの方のご好意ですけれども。その中で、こちらの方でも、記事に取り上げていただきたいものをご連絡をしているところでございます。

また、その他の情報でございますけれども、その新聞以外にもマスコミ報道関係ございますので、町の方でプレスリリースという、ちょっと外国語で申し訳ないのですが、情報提供させていただく様式を統一させていただく中で、それぞれの担当からも直接報道関係に情報が提供できるような形を、今、取らせていただいております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） はい。実は私が想像した以上にやっつけらっしゃるということでした。というのは、結果でございますので、新聞等に出なければ、やはり相手は取り上げる、取り上げるスペースの問題もございます。魅力の問題もあります。できるだけ取り上げていただけるような、一社に限らず、公平に各社に、今、総務課長のおっしゃられたプレスリリースを発信し続けていただければよろしいかなと思います。

観光ということで、先ほど癒しの森の事業を十数年やってきておりますけれども、企業と協定を結んでおります。先ほどの姉妹都市は 18 万もしくは、その能登を入れたら 20 万と申し上げましたけれども、癒しの森の協定を結んでいる 30 数社あると思うのですが、そちらの企業さんに対して、町長にお伺いしたいのですが、企業訪問されたことがありますか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） はい、私はちょっとまだ直接伺っておりませんが、副町長の方で伺わせていただいて、いろいろなご要望を申し上げたり、向こうのご意見を頂戴したりということはやっております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） はい、非常に、町長が伺えなければ副町長が行くのは、これは非常に良いかなと、まさに町の営業マンが町長・副町長であると思えますし、全職員も本来なら営業マンであっていただければなと思います。町のパンフレットを、職員がどこか出張に行くとき持って行くとか、そういったものを、またうちの町にも来て下さいねということが、一つの人脈作りだと思います。人脈が、人が人を呼び、また一回来てくだされば、この信濃町の良さをご理解いただければ、客が客を呼ぶ、そういったこと。また紹介ということもあります。信濃町、行ってみたらどうですかという紹介もあると思えますので、これからまた町長以下職員の方、一丸となって、非常に、先ほども申し上

げましたけれども、これからトップシーズンに入ってまいります。職員は体を気を付けながら、ただこの観光の町で公務員となられたからには、自分の職務を全うしていただければと思います。

時間が早いのですが、以上で私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

- 議長（小林幸雄） 以上で佐藤博一議員の一般質問を終わります。
この際、10 時 40 分まで暫時休憩といたします。

(午前 10 時 23 分)